

# 自社ブランドが成長

## 丸山繊維産業 蚊帳の技術で多彩な雑貨



タオルは独特の風合い、通気性、速乾性が人気

年に蚊帳の織物技術を活用してギフト用包装資材の製品事業をスタート。99年にはライフスタイル雑貨ブランド「ならっぷ」を立ち上げた。現在ではこれら自社ブランド製品事業が売り上げの3割を占めるなど、寒冷紗や産業繊維資材などと並ぶ主力事業の一つに成長してきた。ふきんやティータオル、ブックカバーなど商品バリエーションの豊富さに加え、縫製まで自社で手掛け、蚊帳の織物技術を生かした製品の用途開拓を積極的に行っている。蚊帳織物を使った「蚊

帳の夢ふきん」は吸水性、速乾性、通気性に優れるロングセラー商品。最近では蚊帳生地を重ねて使用したタオルも人気で、オーガニックコットン使いや備長炭練りこみレーヨン使いなども用意。パイルのタオルにない通気性の良さなどが評価されている。5年前からは海外展示会にも積極的に出展し、米での販売が拡大。2月には独の展示会アンビエンテに初めて出展し、欧州での拡大を見込むほか、海外ネット販売も視野に入れる。縫製で自動機を導入するなど設備投資にも積極的だ。3年前には島精機製作所のデザインシステムを導入。織物の柄や商品パッケージデザインに活用しており、今後も新たな商品開発に力を入れる。

整経、織布から縫製までを手掛ける丸山繊維産業（奈良県天理市、丸山欽也社長）は、織布技術を生かしたラッピング資材やふきん、タオルなど自社ブランド製品を拡大している。米やアジアといった輸出も伸びつつあり、今後は欧州での広がりも狙う。奈良県は蚊帳など粗目織物の産地として知られている。同社も蚊帳や農業用の寒冷紗などを長年主力としていたが、92